

## アグリズ・ワン/和光ミートセンター

牛の新規出荷や多産地化進める  
若い世代への技術伝承も重要

ミート・コンパニオン(MC)グループの食肉センターとして、安全・安心で高品質な食肉を国内外に供給するために重要な役割を果たしている(株)アグリズ・ワン/和光ミートセンター(埼玉県)。2023年度の取扱実績については牛、豚共に前年度を上回った。音田社長は「少しでも多くの生体を出荷してもらうため、産地とのコミュニケーション強化など、社内一丸となって努力しており、その成果として頭数増加につながった」と説明する。MCグループ全体で新規出荷者の開拓に精力的に取り組んでおり、とくに牛については近年、北海道や東北、さらに九州など遠隔地からの集荷も順調に伸びている。

一方、豚については、飼料価格の高騰などが替の影響などあって生産コストが上昇する中、生産農家の廃業も増加。加えて近年は異常ともいえる猛暑による影響も大きく、集荷環境は牛以上に厳しい。また、収益面を考慮すると、牛と違って遠隔地からの集荷は厳しいのも事実だ。これに対しては牛の集荷拡大、販売強化により、全体の収益性を上げていく。

24年度も「直近の4月、5月の実績をみると、前年を上回る水準で推移している。当然24年度の計画値はクリアしていきたい」と音田社長。また、「物流の2024年問題」については生産者や運送業者と話し合いを重ねることで、以前に比べると多少時間はかかるものの、出荷自体に大きな影響は出ていない。「出荷をやめるケースも出ることで想定していたが、皆さんにご協力いただき、ありがたいことに現状では一件もない」と話す。

アグリズ・ワンではSQF認証およびコーデックス基準のHACCP認証を取得。常にバージョンアップを図っている。従業員の衛生意識も非常に高く、品質管理課の指導のもと、全社一体で取り組む。設備投資については、本年度は枝肉搬出コンベアや冷凍設備の更新を順次進め

ていく。施設の老朽化に対しては、と畜作業を継続しながら適宜更新を図る。さらに従業員の労働環境改善にも注力。とくに豚のと畜ラインは高温多湿でかなり過酷な環境になるため、局所的に冷風が当たるようにするなどの改善を図っていく。衛生面では、昨年からの作業現場のまな板や枝肉の洗浄に過酢酸を使用。拭き取り検査などの数値をみても菌数減少の効果が出ている。



音田敏彦社長

国産牛肉の輸出についてもMCグループとして精力的に取り組んでおり、タイやベトナム、フィリピンといった東南アジアを中心に安定的に出荷している。今後は「アフターコロナで世界の観光地に人が増えている中、例えばタイでいえばバンコクだけでなく、プーケットなど、リゾート地を意識した提案も必要になる」と音田社長。また、北海道など産地を前面に出したブランディングや、和牛だけでなく交雑牛の価値訴求など、さまざまな提案を行うことで「まだまだビジネスチャンスはある」と話す。

また、MCグループでは人材育成に注力。「ハラスメント」「メンター」「SDGs」「社内イベント」という4つの委員会では、それぞれ社員が中心となって改善・提案を進めている。さらに業界を問わず、人手不足が恒常的な課題となっている中、アグリズ・ワンでは従業員の定着率を上げることが意識している。音田社長は「以前に比べれば、と畜、加工の工程においてもだいぶ機械化されてきているものの、技術を伴う多くの作業はまだまだマンパワーに頼っている。今後、若い世代に向けて、そうした経験と技術を伝承していくことも重要な役割だと考えている」と強調する。

## 2023年度取扱高と取扱頭数、およびそれぞれの前期比

牛枝肉=ゼリ・取扱高	-	-	取扱頭数	4,200 頭	102 %
牛枝肉=相対・取扱高	68億5,000万円	-	取扱頭数	7,500 頭	114 %
豚枝肉=ゼリ・取扱高	-	-	取扱頭数	4万3,100 頭	97 %
豚枝肉=相対・取扱高	7,900万円	-	取扱頭数	2,700 頭	117 %
牛部分肉=取扱高	1億8,000万円	-	取扱頭数	4,400 頭	100 %

## 2024年度取扱高と取扱頭数、およびそれぞれの前期比(計画)

牛枝肉=ゼリ・取扱高	-	-	取扱頭数	4,600 頭	110 %
牛枝肉=相対・取扱高	63 億円	-	取扱頭数	6,900 頭	92 %
豚枝肉=ゼリ・取扱高	-	-	取扱頭数	4万2,000 頭	97 %
豚枝肉=相対・取扱高	1億3,500万円	-	取扱頭数	4,600 頭	170 %
牛部分肉=取扱高	2億2,300万円	-	取扱頭数	5,030 頭	114 %

## 輸出認定の有無

【牛肉】 タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、マカオ

牛肉の主要取り扱い産地  
上位3県

1位	北海道
2位	埼玉県
3位	栃木県

## 牛肉の主要取り扱い銘柄

-

豚肉の主要取り扱い産地  
上位3県

1位	群馬県
2位	埼玉県
3位	宮城県

## 豚肉の主要取り扱い銘柄

TOKYO X